



学校の窓から

令和2年6月5日号

工夫すればだいじょうぶ 新たな生活様式

通常登校が始まって1週間が過ぎようとしています。今週は感染防止対策にみんなで取り組み、工夫・改善するとともに、新しい生活習慣として定着できるようにすることに力を入れてきました。思いの外うまくいったこともあれば、改善が必要なことや段階的に取り組んでいく必要があることも見えてきました。驚いたのは、子どもに感染防止策の理由を説明して取り組むように促すと、きちんと実行することです。森合小学校の子どもたちの素直さに、改めて感心しました。

<朝の過ごし方>



左の写真は教室入口の表示です。「登校したら①健康調査カードをかごに入れる。②消毒する。③教室へ カードを忘れたら保健室で検温する」と書いてあります。朝、検温した機会に自分の体調を確認し、登校の可否を判断する、あるいは親に相談するというのは、自分と周りの人々を守るために必要な習慣として定着を図りたいことです。みんながこの習慣を身に付けることが、安心して生活できる学校にすることにつながります。

<保健室の工夫>



保健室の一角に「検温コーナー」を設けました。朝、家で検温できなかった場合は、ここに来て自分で検温し、体温をカードに記録してから教室に行くことにしてあります。また、学校で発熱や風邪等症状が出た場合は、カーテンで仕切られた通路を通過してベットに行くことができるようにしました。限られた空間を分けることで、保健室の機能を果たせるようにしてあります。保健室はこれからますます大事になってくると思います。

<手洗いの様子>



手洗い場の混雑が心配されましたが、子どもたちは目印の線に立ち、順番を守って並んでいます。50cmしか間隔をとれない所もありますが「しゃべらない・触らない」という約束も併せて守ることで、感染を防止しています。子どもはこの約束を守っているのです、うまくいっています。

<みんなでダンス>



太陽の光を浴びて元気に運動することは、免疫力を高めることに直結します。限られた時間内に全校児童が外に出て、ソーシャルディスタンスを確保して運動するにはどうすればいいかと、体育部で考えたのが「全校ダンス」です。今週は「エビカニクス」と「パプリカ」をみんなで踊りました。ある子には「ちょっと古いんじゃない」と言われましたが、みんな笑顔で踊っているので、来週も続けることにしました。

<昇降口の様子>



本校では昇降口は1カ所しかないのですが、「上履きを持ち、空いている所に行って履き替える」とことと「しゃべらない・触らない」ことを併せて行うことで密集を解消するように指導したところ、ほとんどの子どもたちは2日で理解し、実行することができました。

こうした感染防止策の理解と実行は、子どもたちにとって「周りの人への気遣い」を学ぶ機会となったと思います。この意識は、これからの社会を生きていく上でとても大切なことだと思えます。